

**J** **apanese text**

2018年 春/夏号 日本語編

日本美

**[ホテル雅叙園東京] 創業90周年を祝う  
——知られざる“日本美の館”**

撮影=小野祐次 文=編集部 地図=ハニージ

p.076

訪れる人が本物の芸術に酔いしれ、夢見心地になるような空間をつくりたい——90年前、そんな思いに駆られた創業者、細川力蔵は、当時の芸術家を数多く招き、日本美の粋を凝らした館をつくり上げた。それが、1938年に結婚式場として開業し、今はホテルとして多くの人々を魅了している「ホテル雅叙園東京」。めくるめく日本美に出会う感動の東京ステイを、ぜひ体験してほしい。

百段階段

創業当時のままの木造建築として今も残る「百段階段」は、東京都の指定有形文化財指定建造物。7つの和室を99段の階段がつないでいる。左ページは艶やかな日本画と見事な床柱に圧倒される「漁樵の間」。

美人画の大家、<sup>かぶらぎきよかた</sup> 鏗木清方が手がけた「清方の間」は、欄間の美人画は もちろん美しいが、必見は神代杉で編み上げた網代天井。扇面の杉板に描かれた繊細なる四季の草花を見上げてみてほしい。

p.078

すべてが雅、すべてが絢爛

- 1: 「牛若の間」の組子障子。
- 2・5: 宴会場「牛若の間」の床柱。左は「古事記」にあるヤマタノオロチ（8つの頭に8つの尾をもつ怪物）をスサノノミコトが退治する日本神話を描いたもの。右は京都の鞍馬山で天狗の修行を受けている牛若丸（後の源義経）を描いている。
- 3: 中国料理「<sup>しゅんゆうき</sup>旬遊紀」には、創業当時の部屋を再現した個室が2つある。そのうちのひとつ、「<sup>ぎよくじょう</sup>玉城の間」は花笠踊りの艶やかな風俗を描いた<sup>ますだぎよじょう</sup>益田玉城の日本画で四方を囲まれている。創業者が考案したといわれる螺鈿の施された円卓で、医食同源の本格中国料理を楽しんでほしい。
- 4: ホテル雅叙園東京館内に突如現れる茅葺屋根の一軒家、日本料亭

<sup>とふうてい</sup>「渡風亭」。日本庭園と川のせせらぎ、広々とした縁側に灯る灯りが、都心にいることを忘れさせる。

(p.079)

「渡風亭」の個室のひとつ、「<sup>ちくほ</sup>竹坡の間」。部屋の壁、二面には鶴、天井には兔の螺鈿が施されている。柔らかい灯りが螺鈿に反射して煌めき、幽玄の空間へと訪れるものを誘う。

p.080

全客室がスイートルーム

上: 全室が80㎡以上というホテル 雅叙園 東京の客室。写真は120㎡の広さを誇るアンバサダースイートで、晴れた日には大きな窓から富士山を望む絶好のロケーションとなっている。ジェットバスやスチームサウナ、ウォークインクローゼットなど、滞在客に寛ぎをもたらすファシリティも充実している。

左: 和の要素をあしらったしつらえに心が安らぐ寝室。

下左: 最上階の客室フロアには朝食やカフェ、アペリティフタイムを楽しむエグゼクティブラウンジのほか、こぢんまりとした居心地のよいライブラリーも。壁沿いのベンチの座面に畳を使用するなど、日本らしさもそこかしこに。観光の計画を立てるのにぴったりのスペースだ。

下右: ライブラリーはモダンな空間ながら、螺鈿細工の柱や欄間の日本画などがその雰囲気と絶妙に溶け合い、独特の美しさを保っている。

p.081

世界にこそ知ってほしい

比類なき美に満ちた圧倒的空間

——その名は「ホテル雅叙園東京」

1928年に「雅叙園」として芝浦に創業、1931年に現在ある目黒の地で「目黒雅叙園」と名を改め、料亭として歩み始めたのが歴史の始まり。創業者である細川力蔵の夢はここを“竜宮城”のような夢の空間にすることだった。日本のみならず世界中から建築資材を求めてつくられた和の館に、今をときめく画家や彫刻家、螺鈿などの職人を招いて装飾に当たらせた。一部屋すべてを一人の画家の絵で埋め尽くしたり、日本の神話や歴史物語を柱や板に立体的に彫刻したり、壁

面ばかりか天井、窓枠、戸棚まで、すべてが新たに生み出された芸術である。その偉業は細川力蔵の美への執念としかいようがないであろう。常に革新的でユニークな発想を旨とした彼にはもうひとつ、願いがあった。それはこの美の館を、広くあまねくすべての人々に提供したいということだった。誰にでも芸術に触れ、夢を見る権利があるのだという思いから、1938年「目黒雅叙園」は日本で初めての総合結婚式場へと進化していく。

その後、東京都の指定有形文化財に指定された木造建築、百段階段を残して、それ以外の部分を近代的なビルへとリニューアルした。すべてのアートは移築され、モダンでクリーンな空間のなか、新たな輝きを放つこととなった。2017年には「ホテル雅叙園東京」と名称も改め、客室もホスピタリティ溢れる今様の姿へとリフレッシュ。そして今年2018年12月にはいよいよ創業90周年を迎える。

エントランスを抜けると現れる日本庭園や滝。館内にある大きな門。見上げれば天井画があり、回廊には彩色木版画が連なり、トイレには太鼓橋まである——というと、あなたは「想像できない」「よくわからない」と思うだろう。それでいい。ここは実際に、自分の目で見て、手で触れて初めてわかる場所なのだ。おそらくは今後、二度とつくられることはないであろう日本美の館、それを見るためだけにでも、日本を訪れる価値はある。

上：厚さ5cmのケヤキ板で作られた百段階段は全部で99段。

左上：館内で一番古いとされる組子障子。図柄は右から扇子、投網、松皮菱。現在は和室宴会場ロビーで見ることができる。

下：昭和初期の結婚式の風景。館内には神殿のほか、写真室や美容室も併設していた。

左下：開業当時、旧目黒雅叙園のエントランス。

東京都目黒区下目黒 1-8-1

Tel.03-3491-4111

[www.hotelgajoen-tokyo.com](http://www.hotelgajoen-tokyo.com)

客室料金：エグゼクティブスイート（80㎡）26万円

アンパサダースイート（120㎡）40万円

雅叙園スイート（240㎡）88万円

すべて税・サービス料込み

電車：目黒駅より徒歩3分

羽田空港：車で高速道路約40分

新幹線：品川駅よりJRで約7分、タクシー約20分

東京駅よりJRで約20分 タクシー約40分